「きっかけは、パンの耳を揚げた子どものおやつ」

インタビューを受ける高林紫さん

今から７年前になります。息子と二人で暮らす中、私は昼も夜も働き詰めの毎日を送っていました。限られた時間の中で家事をこなす日々。ご飯を作る時間もとれないときは、息子におにぎりやサンドイッチを持たせていました。サンドイッチを作ると、余ったパンの耳はもったいないので冷凍庫に保存。昔からあるおやつで、揚げたパンの耳に砂糖をまぶしたお菓子がありますよね。それが、息子のおやつでした。さすがに毎日同じ味では息子も飽きるだろうと、砂糖以外にもマーガリンやジャムを塗ってみたり、ちょっとずつ味を変えていたんです。そんなある日、ふと思い付いて揚げパンにアイスを乗せてみました。すると、息子が「おいしい」と言うのです。熱いパンに冷たいアイスの不思議な組み合わせ・・・「これならいける！」直感的に、そう思いました。

お店を開くまで、１年半ほどかかりました。まずは、パン。パンはコロネ型がいい。さっそく電話帳を開いて、片っ端からパン屋さんに電話をしました。仕事の合間をぬって、協力してくれるパン屋さんを探す日々。手間のかかることなのでなかなか良いお返事はもらえませんでしたが、やっと最後の方で、友人が紹介してくれたパン屋さんがトライしてみようかと承諾してくれたんです。そのパン屋さんはとてもいい方で、素人の私の提案を、まずは形にしてくれました。それを持ち帰って揚げてみては、「ちょっとベタベタした」とか「もっとモッチリ感がほしい」と口頭で伝えて、何カ月も何十回も、試作品を作っていただきました。今のパンに行きつくまでには、そんな経緯がありました。

「自分の思いが形になっていく。毎日が楽しくて仕方なかった」

コルネットができ上がるまでは、日々ウキウキしていました。商品が形になってくると、“お客さんにこう提供できたら”と、イメージを膨らましていくのも楽しくて。

まず考えたのは、「移動販売」ということでした。やっぱり人のいるところに出向いて行かないと、待っていては始まりません。移動販売車を安く譲っていただき、車の内装は息子と二人で改装しました。それから、中古販売店に行ってソフトクリームを作る

機械を買いました。車と機械で、すでにお店を建てる資金はありませんでした。そこで目を付けたのが母の美容室。ちょうど母が街中で美容院を営んでいたので、そのお店の真ん中に無理やり壁を立てて、半分だけ販売スペースをもらいました。母も仕方ないと思ってくれたのでしょう。店の壁も床も、息子と二人で直しました。私は移動販売車でお店にはいられないので、店の方はそのまま母にまかせることにしました。本当に、最小限の費用でのスタートでした。私は３６５日、移動販売車で販売をしました。息子が休みの日には、必ず一緒に販売に連れて行きました。母と息子には、本当に感謝しています。

コルネット本店

「お客さんとの触れ合いが、今の私を支えている」

販売を始めて２～３カ月が経ったころ、徐々にコルネット目当てのお客さんが増えてきました。最初は理由が分かりませんでしたが、聞いたら「ブログで見て来た」と言うんです。そこで自分もパソコンを開いてみると、たくさんのブログにコルネットが紹介されていました。買ったお客さんが、写メを撮って載せていたんですね。私の知らないところで、ブログから情報が広がっていました。すると、ブログを見た新聞社やラジオ局から取材が入るようになりました。そのうちローカルテレビに取り上げられ、全国版テレビからも取材依頼がくるようになったんです。商品の宣伝は、まさに皆さんの口コミでした。

コルネット移動販売車

お店がオープンしてから６年が経ちます。いつも思うことは、「ありがたい」ということ。私、お客さんと会話するが楽しくて、大好きなんです。「おいしかったよ」「ありがとう」って言葉が、何よりも「ありがたい」。イライラしたり、うまくいかなかったりするときは、現場に行って大きな声を張り上げる。販売に出ることが、私の一番のストレス解消法なんです。…といっても、もともと嫌なことはすぐ忘れてしまうタイプなんですけどね。

「本店を守るお母さん」

本店を支えるお母さん

母の美容室の半分をもらったお店は、今も本店として母がやっています。母も 70 歳になるし、そろそろやめていいよと言うんですが、どうやらお店に立つのが生きがいになっているみたい。お客さんが、子どもから大人まで「おばあちゃんに会いに来たよ」と遊びに来てくれるそうなんです。ときにはお土産を持ってきてくれたり、彼女を連れて来てくれたり…、それがすごく幸せみたいです。

「人々に元気を与えられるコルネットに」

そんな母のように、コルネットを通して元気になる人たちがいるなら、そういう人たちと一緒にコルネットを続けていきたい。それは、当初からの私の夢でした。これからは、自分のような母子家庭を応援する形で、コルネットをさらに展開していけたらと思っています。子どもを抱えて生きていくのは、女性にとって、とても大変なこと。そういう人たちに、コルネットが役に立てたらいいですね。そして、ほんの小さなきっかけから生まれたこのコルネットが、お客さんとの触れ合いを生み、地元に愛され、子どもから大人までいつまでも親しまれ続けることを願っています。